

には済ませたいものです。

なお、降雪地域では湿った雪が木質化した枝を割ってしまうこともあるので、晩秋に切り戻し、切り戻した枝葉はクリスマスツリーやハーブポールに活かすとよいでしょう。寒さにあつた葉は夏の葉より頑丈で、シルバー色が強く出て、荘厳な美しさがあります。または枝割れを想定して、早春に枝の整理も兼ねて剪定するのもよいでしょう。

(菅野恵美子)

Q4

アスパラガスをプランターで栽培したいのですが、ちやんと育つかどうか不安です。育て方の注意点を教えてください。

(大阪府 野菜講座受講生)

A4

アスパラガスはもちろろんプランターでも栽培できます。根が深く張るので、深型のプランターを使用しましょう。1株なら30〜40cm、2株なら60〜80cmの深さのものを選びます。形は丸型でも四角でも大丈夫です。

用土は市販の野菜用の土を使用

すると楽です。水はけが良くなるようにプランターの底部に底土や赤玉土を敷き詰め、その上に用土を入れます。植え付け後はできるだけ日当たりの良い場所に置き、毎日の水やりを欠かさないようにしましょう。

また、アスパラガスは成長すると1〜1.5mとかなり背が高くなるので、折れたり倒れたりしないように、周りに支柱を立てて糸やロープなどを張っておくとよいでしょう(下写真)。プランターの場合にはバランスが悪くなりますので、風の強い時はプランターごと倒れないように気をつけてください。

プランターでも株が育てば長期間収穫することができます。収穫量が急に減った場合は根詰まりが考えられますので、5〜6月に掘り上げて古い根を切り詰めて植え替えをするか、もしくは株分けをしてください。植え替え時は、新しい培養土にするとよいでしょう。古い土を使う場合は、苦土石灰などをに入れてpH調節をしてください。

(荻部弥生)



▲倒伏防止を施したプランター栽培。(写真提供：大好き!プランター菜園 <http://plantersaien.com/>)

◆害虫駆除

Q5

鉢植えのヒメリンゴの鉢底にクロアリが集まってきて困っています。どう対処したらよいのでしょうか。

(京都府 会員)

A5

植木鉢にアリが集まる例によくあるのは、植木鉢の中にアリが巣を作っているケースです。この場合、餌を求めて巣から出たアリが徘徊することになります。新築の家やマンションの高層階で小さなアリが出没する原因は、植木鉢であることが多いようです。冬に熱帯性植物の鉢を室内に取り

込んでおいたところ、春先の暖かくなる頃に室内で小さなアリが出没するようになったということはよく聞きます。また、鉢底の下の地面の中に巣がある可能性もあります。

特に鉢の中に巣がある場合は、鉢替えをして、鉢の中の土を全部出し切ります。アリや卵がたくさん出てくるかもしれません。そしてヒメリンゴの根からできるだけ土を落として、新しい鉢に新しい用土を使って植え直しましょう。

植え替えは、休眠(11〜1月、2月上旬)から目覚めて根が活動を始める2月下旬〜3月上旬が適期ですが、真夏が来る前の5、6月なら支障ありません。

植え替えができない場合は、アリ退治専用の薬剤もあります。顆粒剤の「アリの巣コロリ」、「アリアートル」のほか、水と糖蜜、ホウ酸を使用した液剤「アリメツ」などです(51ページ写真)。いずれも独自の配合の薬剤でアリを誘引して巣に持ち帰らせ、食べさせて退治します。試してみてください。